

小学校 音楽科

1. 音楽科における学習評価の基本的な考え方

音楽科では、学習指導要領に示された資質・能力を、表現及び鑑賞の活動を通して育成していくことが大切です。この資質・能力は、学習指導要領の内容に示されているので、そのまま題材の目標として設定することが可能です。この内容と、児童の実態等を踏まえ、評価規準を作成し、目標の実現に向けた児童の学習の状況を評価します。また、資質・能力の3つの柱のうちの1つ「学びに向かう力、人間性等」は、年間を通して目標の実現に向けた粘り強さや自らの学習の調整をしようとする姿を評価します。

2. 小学校音楽科の学習評価に関する事例

小学校音楽科の「内容のまとまり」は、「A 表現」(1)歌唱の活動、(2)器楽の活動、(3)音楽づくりの活動と、「B 鑑賞」(1)鑑賞の活動に分けられています（全てに〔共通事項〕が含まれます）。この内容のまとまりを踏まえた学習評価の事例を、第4学年の題材で説明します。

例 第4学年 題材名「曲のとくちょうをとらえて表現しよう」「A 表現・歌唱」「A 表現・器楽」

内容のまとまり：〔第3学年及び第4学年〕「A 表現」歌唱の活動 及び〔共通事項〕器楽の活動 及び〔共通事項〕

(1) 題材の目標の設定



内容には示されていないので、該当学年の目標(3)を参考にする。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
「とんび」、「エーデルワイス」の曲想と音楽の構造との関わりなどについて気付くとともに、思いや意図に合った音楽表現をするために必要な技能を身に付ける。	「とんび」、「エーデルワイス」の旋律、フレーズ、反復、変化などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌ったり演奏したりするかについて思いや意図をもつ。	曲の特徴を捉えて表現する学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱や器楽の学習活動に取り組み、日本のうたやリコーダーに親しむ。

題材の目標と、「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料の「内容のまとまりごとの評価規準（例）」を参考に、前の題材までの学習内容を踏まえ、題材の評価規準を設定する。文末は「～している」等にする。

学年別の評価の観点の趣旨のうち「主体的に学習に取り組む態度」に関わる部分を用いて作成する。

(2) 題材の評価規準の設定

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>技 思いや意図に合った音楽表現をするために必要な、呼吸に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けて歌っている。（歌唱）</p> <p>知 曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付いている。（歌唱・器楽）</p> <p>知技 リコーダーの音色や響きと演奏の仕方との関わりについて気付くとともに、思いや意図に合った表現をするために必要な、音色や響きに気を付けてリコーダーを演奏する技能を身に付けて演奏している。（器楽）</p>	<p>思 <u>旋律、フレーズ、反復、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。</u>（歌唱）</p> <p>思 <u>旋律、フレーズ、反復、変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。</u>（器楽）</p>	<p>態 曲の特徴を捉えて表現する学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら 主体的・協働的に歌唱や器楽の学習活動に取り組もうとしている。（歌唱・器楽）</p> <p>文頭には、その題材の学習に粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとしたりするために必要となる事柄を記載する。</p>

「知識」と「技能」はそれぞれ分けて示している。評価場面や評価方法が同じである場合、**知技**のように一文で表すことも考えられる。

「○○を感じ取りながら」の「○○」の部分は、音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、和音の響き、音階、調、拍、フレーズ、反復、呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横との関係など、その題材の学習において児童の思考・判断のよりどころとなる主な要素を選択して置き換える。

(3)題材の指導と評価の計画(全5時間)

ねらい	時	学習内容	評価計画【評価場面】			おおむね満足できる状況 (例)
			知・技	思・判・表	態	
「とんび」の曲の特徴を捉えた表現を工夫して歌う。	1	○「とんび」の歌詞の表す様子や旋律の反復など曲の特徴を捉える。 ○「とんび」の曲の特徴を捉えて表現を工夫する。				
	2	○旋律、フレーズ、反復、変化などをよりどころにして、「とんび」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付く。 ○「とんび」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付いたことを生かして表現を工夫し、思いや意図をもつ。 ○第1～2時で学習したことを生かし、思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けて歌う。	技 聴取 知 記述・発言	思・判・表 記述・発言・聴取	態	技 呼吸に気を付けて、とんびが鳴きながら飛んでいる様子を歌い方で表現することができている。 思 ・旋律の動きから、とんびがゆったりと飛ぶ様子をイメージすることができている。 ・表現を工夫し、とんびが鳴きながら近づいてきたり去っていったりする様子を歌い方で表そうとしている。
「エーデルワイス」の曲の特徴を捉えた表現を工夫してリコーダーを演奏する。	3	○「エーデルワイス」の特徴を捉えてリコーダーで旋律を演奏する。 ○運指や音色に気を付けてリコーダーを演奏する。				
	4	○「エーデルワイス」の特徴を捉えてリコーダーの表現を工夫する。	知 記述・発言	知 記述・発言・聴取	態	知 「エーデルワイス」と「とんび」の旋律の共通点や違う部分に気付いている。 思 ・「エーデルワイス」の旋律の動きから、雄大な山々や自然をイメージすることができている。 ・表現を工夫し、はっきりしたタンギングで演奏しようとしている。
	5	○前時までの学習を基に、グループごとに「エーデルワイス」の特徴を捉えた表現を工夫し、思いや意図に合った表現をするために必要な、リコーダーの演奏の仕方に関する知識と技能を身に付けてリコーダーを演奏する。 ○グループごとに、表現を工夫した「エーデルワイス」の演奏を発表する。	知・技 記述・発言・聴取	思・判・表 記述・発言・聴取	態 観察・記述・聴取	知・技 旋律のまとまりを考えながら、適切な息の強さやタンギング、運指など、学習したことを生かして演奏することができている。 態 学習の全体を振り返って、自分が学んだことについて授業での学習内容を踏まえて書いたり発言したりしている。

思【第1時の後半から第2時】
継続的に見取り、第2時で記録に残す。

知【第2時と第4時】
「とんび」の歌唱と「エーデルワイス」の器楽における知識の習得状況を継続的に把握し、第4時で記録に残す。

思【第4時から第5時の前半】
主に第4時で学習状況を記録に残し、第5時の前半まで継続的に見取り、適宜見直す。

態【第1時から第5時】
学習内容への興味、友だちの発言に対する反応、歌うときの表情や体の動きの観察、歌声の聴取、グループで表現の工夫に取り組むときの様子や、リコーダーを演奏している様子の観察などから児童の学習状況を捉え、継続的に見取り、第5時で記録に残す。

